

請 願 文 書 表 (平成28年12月16日定例会提出)

請願第23号

横井町山林への新斎苑建設計画を白紙撤回し、未来世代に負担の少ない場所に早期に新斎苑の建設を求める請願書 (市民環境委員会付託)

平成28年12月12日受理

請 願 者 ●●●●●●●●●●
鹿野園町自治会
会長 竹 中 正 彦 外2名
紹介議員 今 西 正 延

一 請願事項

直ちに横井町山林への新斎苑建設計画を白紙撤回し、未来世代に負担が少ない場所に早期に新斎苑の建設を求める。

二 請願要旨

奈良市は計画地の安全を確認するために多額の税金を投入しています。もとより災害リスクの少ない、建設に適した場所を選べば必要のない費用です。専門家が「施設完成後も監視が必要」と述べるように、災害リスクのある土地に建設することは将来にわたり調査等の費用負担を発生させ、また橋梁の維持管理等にも多額の費用が必要になります。少子高齢化社会において、社会インフラの維持管理は大きな問題であるにもかかわらず、リスクのある土地に建設すること、また大規模な橋梁を建設することは時代の潮流に逆行する行為です。そもそも地元住民は、リスクの『減少』ではなく『払しょく』がなければ安心して生活することはできません。新斎苑は災害の危険性のある地域を避けた場所に建設し、市民の貴重な税金の使い方を見直し、金銭面においても安全面においても、未来世代に負担を負わせることは避けなければなりません。

また、東山霊苑火葬場より炉の数がふえ、霊柩車やマイクロバスがひっきりなしに通ることになります。観光客の増加により、市中心部へ向かう道路では交通渋滞が頻発しており既に生活に影響があるにもかかわらず、新斎苑が建設されればさらなる交通量の増加は避けられず、生活へ影響を与えることは必至です。渋滞回避や近道を目的に狭い住宅地内の生活・通学路を抜け道として通過する車両が激増し、地域の高齢者や子供が危険にさらされ、交通安全確保の対策上大きな問題が生じることになります。さらには、治安の悪化も懸念されます。

鹿野園町の農家組合員、水利組合員、自警団員、そして半数以上の地元住民から、建設計画の白紙撤回を求める請願書を各々の立場から既に提出しています。奈良市が横井町山林へ

の新斎苑建設計画を推進することで、賛否をめぐり自治会は大もめとなり、住民間に大きく深い溝が生まれました。近所づき合いさえしにくい状況となり、鹿野園町の地域コミュニティーは崩壊寸前となっています。人々が互いに思いやり、支え合い、助け合う地域社会をこれ以上悪化させないために、12月11日、各人が鹿野園町の「未来のあるべき姿」を考える場として総会を開催し、新斎苑建設に対する賛否確認を行ったところ、大多数をもって建設に反対することになりました。市は、鹿野園町から既に提出済みの請願書を含めた地元住民の声を真摯に受け止め、直ちに横井町山林への新斎苑建設計画を白紙撤回し、未来世代に負担の少ない場所に早期に新斎苑を建設されることを求めます。